

第4節 逸脱行動と余暇行動

本節では、青少年の逸脱行動が余暇行動とどのような関連をもっているかに焦点を当ててみよう。以下、「放課後や休日をどのように過ごすことが多いか」を尋ねた結果に基づいて、分析を進めることにしたい。

(1) 男女別に見た余暇行動

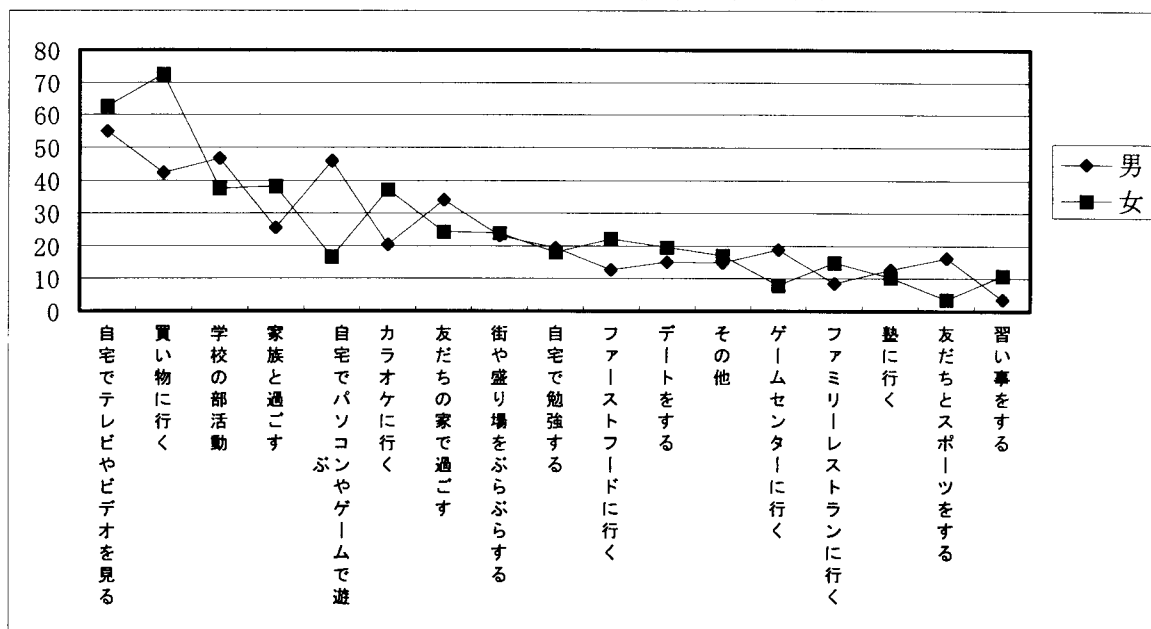
高校生の余暇行動を男女別に見たものが、表6-13および図6-8である。全体としては、「自宅でテレビやビデオを見る」「買い物に行く」がそれぞれ6割弱を占めて最も多く、次いで「学校の部活動」(42%)、さらに「家族と過ごす」(32%)「自宅でパソコンやゲームで遊ぶ」(31%)「カラオケに行く」(29%)「友だちの家で過ごす」(29%)「街や盛り場をぶらぶらする」(29%)などが多い。

また、男女別では、女子よりも男子に多い余暇行動として、「学校の部活動」「自宅でパソコンやゲームで遊ぶ」「友だちの家で過ごす」「ゲームセンターに行く」「友だちとスポーツをする」などが挙げられる。これには学校の部活動やスポーツといった自己向上的な活動もあるが、いわゆる「遊び」としての行動も含まれる。他方、男子より女子に多い余暇行動としては、「自宅でテレビやビデオを見る」「買い物に行く」「家族と過ごす」「カラオケに行く」「ファーストフードに行く」「デートをする」「ファミリーレストランに行く」「習い事をする」など、静的及び動的の両面にわたる行動が挙げられる。

表6-13 余暇行動(男女別) 複数回答 (%) N=2131

	男	女	全体
学校の部活動	46.6	37.6	41.6
塾に行く	12.6	10.3	11.4
習い事をする	3.5	10.9	7.3
友だちとスポーツをする	16.2	3.5	9.6
ゲームセンターに行く	18.7	7.9	13.2
カラオケに行く	20.3	37.2	29.2
ファーストフードに行く	12.7	22.2	17.5
ファミリーレストランに行く	8.5	14.8	11.8
家族と過ごす	25.5	38.2	32.1
自宅で勉強する	19.4	18.0	18.6
自宅でパソコンやゲームで遊ぶ	45.9	16.6	30.7
自宅でテレビやビデオを見る	54.9	62.6	58.7
買い物に行く	42.2	72.4	57.9
街や盛り場をぶらぶらする	23.1	23.9	28.7
友だちの家で過ごす	34.0	24.2	29.0
デートをする	15.1	19.5	17.4
その他	14.9	16.9	16.0

図6-8 余暇行動(男女別) 複数回答 (%) N=2131



(2) 大学進学率別に見た余暇行動

余暇行動を大学進学率別に見たものが、図6-9および表6-14である。大学進学率の高い群では、「学校の部活動」「自宅で勉強する」「塾に行く」「習い事をする」といった学習や自己向上的な活動をして過ごす者が多いと言える。逆に大学進学率が低い群ほど、「買い物に行く」「自宅でテレビやビデオを見る」「カラオケに行く」「友だちの家で過ごす」「街や盛り場をぶらぶらする」「デートをする」「ファーストフードに行く」「ゲームセンターに行く」「ファミリーレストランに行く」といった時間消費的及び金銭消費的行動あるいは享乐的な過ごし方をする者の比率が高い。

図6-9 余暇行動(大学進学率別) 複数回答 (%) N=2131

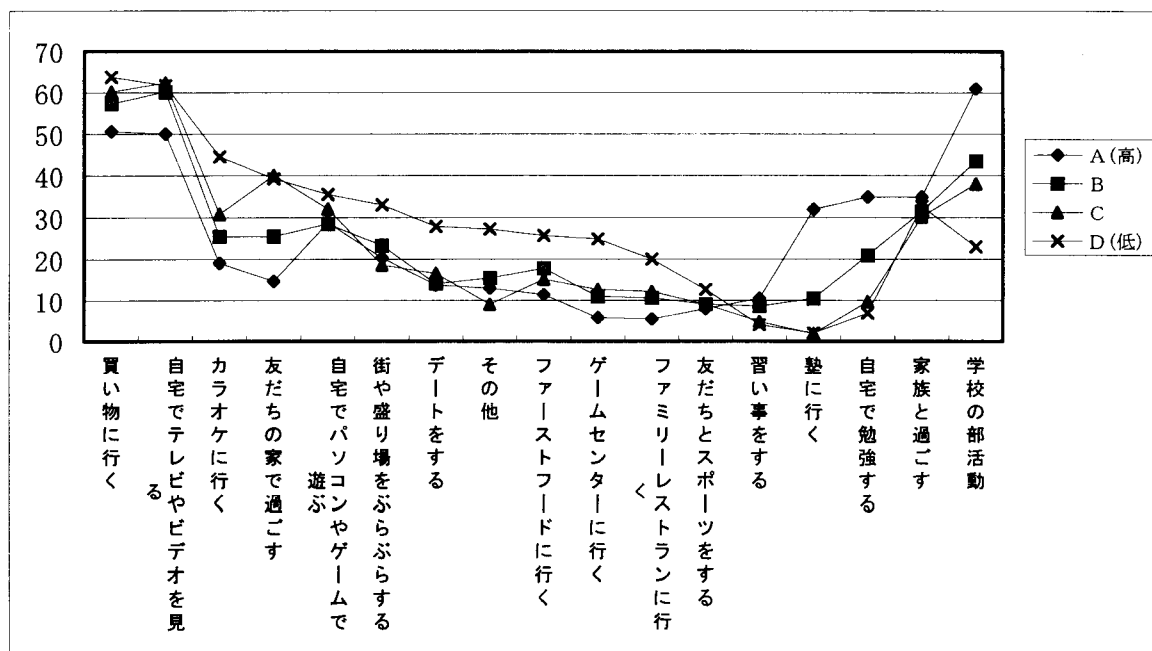


表6-14 余暇行動(大学進学率別) 複数回答 (%) N=2131

	男				女				全体			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A(高)	B	C	D(低)
学校の部活動	63.4	47.0	43.9	32.3	59.3	40.9	31.7	13.3	60.9	43.4	37.9	22.9
塾に行く	31.3	13.5	2.6	3.0	32.6	8.0	1.0	1.0	31.9	10.4	1.8	2.0
習い事をする	4.0	2.7	3.9	3.9	17.2	13.0	5.9	4.3	10.5	8.6	4.8	4.0
友だちとスポーツをする	13.8	16.8	14.9	19.0	2.3	3.7	2.0	5.7	8.0	9.1	9.0	12.7
ゲームセンターに行く	10.7	13.5	19.3	33.2	0.9	9.1	4.0	16.2	5.8	11.0	12.6	24.9
カラオケに行く	18.3	13.8	24.6	27.6	19.9	34.0	36.6	62.9	19.0	25.4	30.8	44.5
ファーストフードに行く	12.1	11.1	11.4	16.8	10.9	22.7	19.3	35.7	11.4	17.8	15.2	25.6
ファミリーレストランに行く	5.8	7.5	8.3	12.9	5.0	13.0	15.8	28.1	5.4	10.6	12.2	20.0
家族と過ごす	28.6	23.4	21.5	29.7	41.2	37.0	40.1	35.7	34.8	31.4	30.1	32.7
自宅で勉強する	33.9	23.1	10.5	8.6	35.7	19.3	8.9	5.2	34.8	20.9	9.7	6.9
自宅でパソコンやゲームで遊ぶ	40.6	44.0	46.9	52.6	17.2	16.9	14.9	17.1	28.8	28.4	32.0	35.4
自宅でテレビやビデオを見る	50.9	54.5	54.8	59.5	49.3	64.3	71.3	64.3	50.0	60.2	62.3	61.7
買い物に行く	37.5	40.4	45.6	46.1	64.7	69.7	76.2	82.9	50.7	57.4	60.2	63.7
街や盛り場をぶらぶらする	21.9	23.1	20.2	27.2	18.6	23.2	16.3	38.6	20.3	23.3	18.6	33.0
友だちの家で過ごす	19.6	31.7	45.2	40.1	10.0	20.3	34.7	37.6	14.7	25.4	40.0	39.2
デートをする	11.2	12.3	17.1	21.1	16.7	15.4	15.3	35.2	13.8	14.0	16.6	27.8
その他	11.6	13.2	9.6	25.9	14.0	16.9	7.9	28.6	12.9	15.4	9.0	27.2

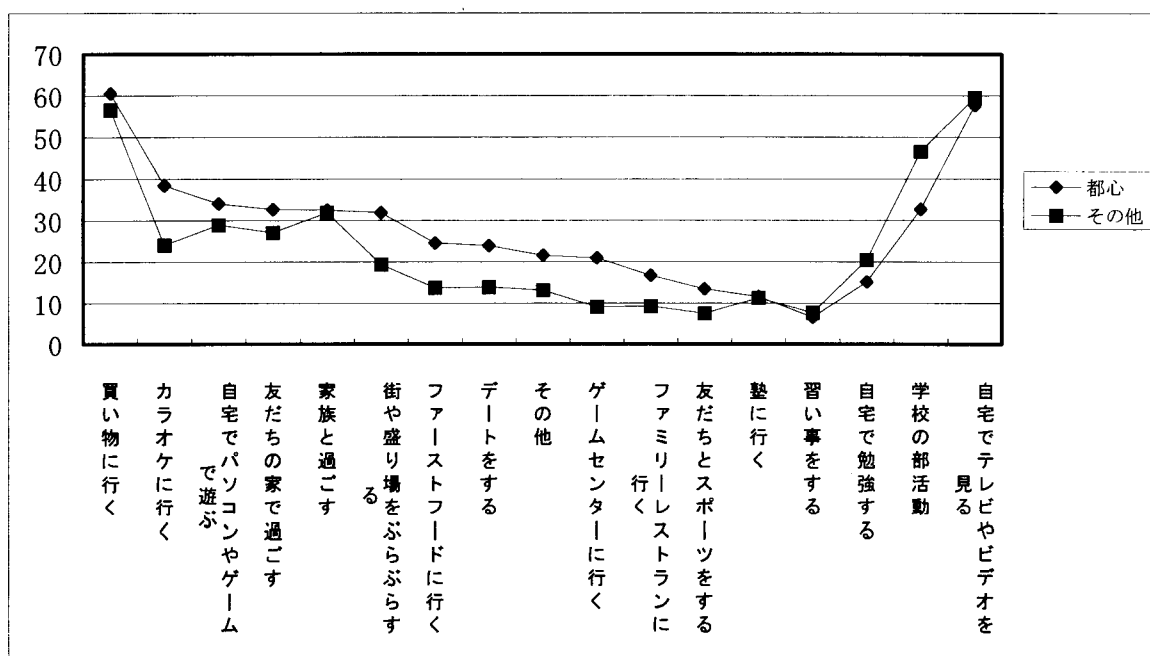
(3) 学校立地別に見た余暇行動

学校立地別に余暇行動をみたものが、表6-15および図6-10である。学校が都心に立地している群では、「カラオケに行く」「街や盛り場をぶらぶらする」「ファーストフードに行く」「デートをする」「ゲームセンターに行く」「ファミリーレストランに行く」などが高く、余暇行動の種類も多様であり、時間消費的、金銭消費的で享乐的な行動傾向が強い。一方、学校が都心以外に立地している群では、「学校の部活動」と「自宅で勉強する」の比率が都心に立地している学校よりも高いと言える。学校が都心に立地しているかどうかによって、青少年の余暇行動のあり方がかなり異なってくることで、また、学校が都心に立地している高校生には、楽しいが享乐的な生活に傾斜する誘因がより強く働いていることを示していると言えよう。その意味では、盛り場や繁華街など都心から離れた地域に立地している高校の生徒の方が、享乐的傾向を助長される誘因が少なく、自分のエネルギーを学習や自己向上的な活動に振り向けやすいということかも知れない。

表 6 - 1 5 余暇行動(学校立地別) 複数回答 (%) N=2131

	男		女		全体	
	都心	その他	都心	その他	都心	その他
学校の部活動	38.9	51.5	26.3	42.7	32.7	46.6
塾に行く	12.8	12.4	10.3	10.3	11.6	11.3
習い事をする	5.0	2.6	8.6	11.9	6.5	7.7
友だちとスポーツをする	20.9	13.2	4.7	2.9	13.5	7.5
ゲームセンターに行く	29.4	11.8	10.9	6.5	20.9	9.0
カラオケに行く	28.9	14.8	49.6	31.6	38.5	24.1
ファーストフードに行く	20.4	7.7	29.8	18.8	24.5	13.8
ファミリーレストランに行く	13.1	5.6	20.6	12.2	16.7	9.2
家族と過ごす	28.9	23.4	36.6	38.9	32.5	31.9
自宅で勉強する	15.6	21.8	14.7	19.4	15.2	20.4
自宅でパソコンやゲームで遊ぶ	46.2	45.6	19.8	15.2	34.0	28.9
自宅でテレビやビデオを見る	54.8	55.0	61.1	63.2	57.6	59.5
買い物に行く	47.0	39.2	75.8	70.9	60.4	56.6
街や盛り場をぶらぶらする	27.9	20.0	35.4	18.8	31.9	19.3
友だちの家で過ごす	35.9	32.7	28.3	22.4	32.7	27.1
デートをする	19.8	12.1	28.6	15.3	23.9	13.9
その他	17.8	13.1	25.4	13.1	21.5	13.1

図 6 - 1 0 余暇行動(学校立地別) 複数回答 (%) N=2131



(4) 逸脱行動度別に見た余暇行動

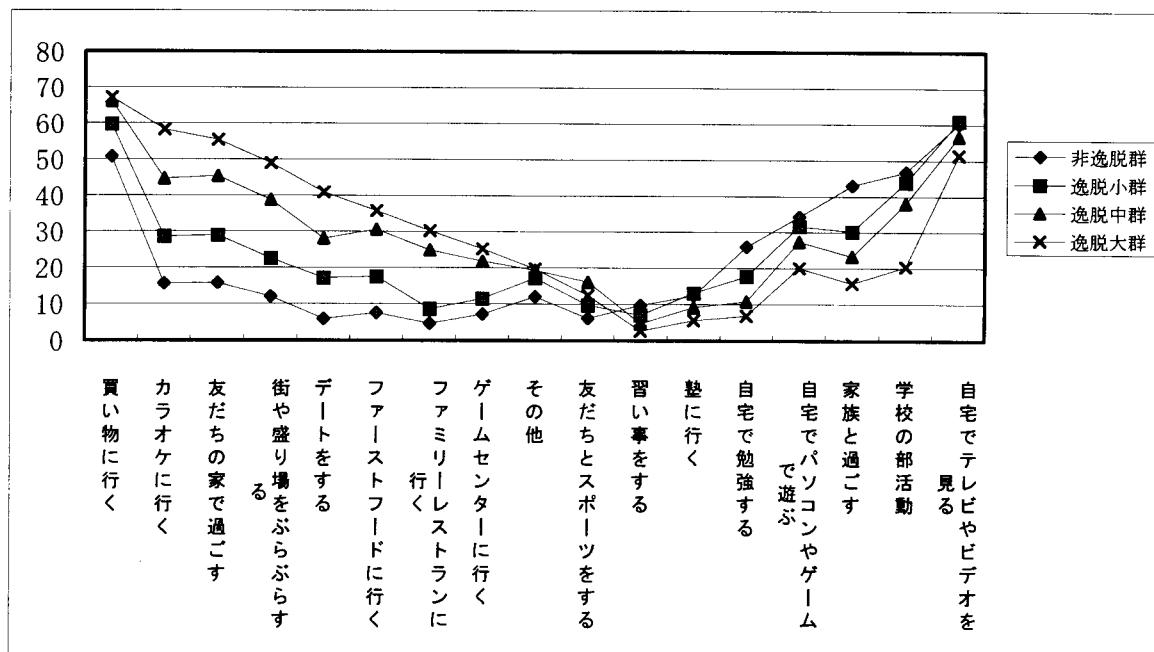
余暇行動を逸脱行動度別に見たものが、表6-16および図6-11である。逸脱行動度の高い群では、「カラオケに行く」「友だちの家で過ごす」「街や盛り場をぶらぶらする」「デートをする」「ファーストフードに行く」「ファミリーレストランに行く」「ゲームセンターに行く」など、いわば「つきあい」や人間関係を重視した、やや享乐的でしかも時間消費型の行動が多く見られる。

逆に、逸脱行動度が低い群ほど、「学校の部活動」「家族と過ごす」「自宅で勉強する」「塾に行く」「習い事をする」などで余暇を過ごす者の比率が高く、逸脱行動度が高い群に多く見られる行動をとる者の比率は少ない。学校、家族、学習などとの結びつきや関心の強さが、間接的に逸脱行動への傾斜を妨げる働きをしているのではないかと思われる。

表6-16 余暇行動(逸脱行動度別) (%) 複数回答 N=2131

	非逸脱群	逸脱小群	逸脱中群	逸脱大群
学校の部活動	46.7	43.9	38.1	20.4
塾に行く	12.3	13.0	9.1	5.5
習い事をする	9.7	6.9	4.7	2.6
友だちとスポーツをする	6.0	9.6	16.0	12.3
ゲームセンターに行く	7.2	11.4	21.7	25.1
カラオケに行く	15.5	28.6	44.7	58.3
ファーストフードに行く	7.5	17.5	30.5	35.7
ファミリーレストランに行く	4.7	8.5	24.8	30.2
家族と過ごす	43.1	30.1	23.3	15.7
自宅で勉強する	25.9	17.7	10.7	6.8
自宅でパソコンやゲームで遊ぶ	34.2	31.6	27.4	20.0
自宅でテレビやビデオを見る	60.1	60.9	56.6	51.5
買い物に行く	50.8	59.6	66.0	67.2
街や盛り場をぶらぶらする	12.0	22.5	38.7	48.9
友だちの家で過ごす	15.7	28.9	45.3	55.3
デートをする	5.9	17.2	28.0	40.9
その他	12.0	17.2	19.2	19.6

図6-11 余暇行動(逸脱行動度別) (%) 複数回答 N=2131



第5節 まとめ

本章では、学校内の生活だけでなく、青少年の学校外の生活をも含めた友人関係や、学校外での生活、余暇行動について、逸脱行動との関連を検討してきた。検討の結果明らかとなったのは次のような点である。

(1) 親しい友人の数

- ① 親しい友人の数は2～3人の者が最も多い。
- ② 逸脱行動度が高い者ほど、親しい友人の数が多い。

(2) 学校外で一緒に過ごす友人

- ① 自校や他校の友人と過ごすことが多い。
- ② 自校や他校を越えての交際範囲はあまり広くはないが、男子では卒業生や盛り場、女子ではアルバイト先で知り合った友人と過ごす者が比較的多い。
- ③ 大学進学率が高い群は塾や予備校で知り合った友人と、低い群ではアルバイト先や盛り場で知り合った友人と過ごす者が比較的多い。
- ④ 学校が都心に立地している群では、都心外に立地している学校群よりも、アルバイト先や盛り場で知り合った友人と過ごす者が多い。
- ⑤ 逸脱行動度が高い群は、低い群よりも他校やアルバイト先、盛り場で知り合った友人や卒業生と過ごす者が多い。

(3) 友だちづきあいの満足度と不満

- ① 友だちづきあいに関しては、約85%以上の高校生が満足している。
- ② 女子は男子に比較して、友人に心を開けないことへの不満が多い。

- ③ 大学進学率が高い群は低い群の高校生と比べて、本音でつきあえないことへの不満が多く見られる。
- ④ 学校が都心に立地している学校群の高校生は、それ以外の地域に立地している群の高校生に比べて、満足度はやや高いが、つきあいのあり方に問題を感じている者も多い。
- ⑤ 逸脱行動度が高い群は低い群に比べて、友人関係の中で友情や連帯感を強めるというよりも、集団に義理的・義務的に所属し、友人関係のあり方に葛藤を感じている者も多い。

(4) 余暇行動

- ① 高校生の余暇の過ごし方としては、自宅でテレビやビデオを見る、買い物に行く、学校の部活動、家族と過ごす、自宅でパソコンやゲームで遊ぶ、カラオケに行く、友だちの家で過ごす、街や盛り場をぶらぶらするなどの過ごし方が多い。
- ② 男子は学校の部活動、パソコン・ゲームなどに関連した遊び、スポーツ、女子ではテレビ・ビデオ、買い物、家族と過ごす、カラオケ、ファーストフードやファミリーレストランに行く、習い事などの余暇活動が特徴的である。
- ③ 大学進学率の高い群は、学習や自己向上的活動に関連する余暇活動が、低い群では楽しみを追求するようないわゆる「遊び」に関連する余暇活動をする者が多い。
- ④ 学校が都心に立地している学校の高校生は、それ以外の地域に立地している学校の高校生よりも余暇活動の種類が多様であり、つきあいを重視した、やや享乐的な余暇の過ごし方をする傾向が見られる。
- ⑤ 逸脱行動度が高い群は、人間関係を重視し、遊びや楽しみを追求するようなやや享乐的な余暇の過ごし方に傾斜している傾向がある。それに対して、逸脱行動度が低い群は、勉強・塾・部活動や自宅で過ごすなど、余暇の生活範囲をあまり広げず自己向上を目指すような余暇行動をとる者が多い。